



CHAPTER 2

Cisco Unity Connection 9.0 から出荷されている Cisco Unity Connection 9.1、バージョンへのアップグレード

この章の内容は、次のとおりです。

- 「[Connection 9.1 へのアップグレードについて](#)」 (P.2-1)
- 「[Connection 9.0 から Connection 9.1 にアップグレードする際の Connection の機能の状態](#)」 (P.2-2)
- 「[Connection 9.0 からのアップグレードで再設定が必要になる機能](#)」 (P.2-3)
- 「[ユーザを Cisco Unity から移行した場合の FIPS モードの有効化](#)」 (P.2-3)
- 「[Connection クラスタでない Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンにアップグレードするためのタスク リスト](#)」 (P.2-5)
- 「[Connection クラスタで Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンにアップグレードするためのタスク リスト](#)」 (P.2-7)
- 「[Connection 9.1 をサポートするためのメモリのアップグレードまたはすべてのハードディスクの交換 \(特定のサーバのみ\)](#)」 (P.2-12)
- 「[ローカル DVD による Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンへのアップグレード](#)」 (P.2-14)
- 「[ネットワーク ロケーションによる Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンへのアップグレード](#)」 (P.2-16)

Connection 9.1 へのアップグレードについて

アップグレードの開始時に、非アクティブなパーティションで再起動するかどうかを選択します。再起動することを選択した場合は、アップグレードが完了するとサーバが自動的に再起動し、アップグレードしたバージョンの Connection が実行されます。再起動しない場合は、アップグレード完了後に、手動でアップグレード後のバージョンに切り替える必要があります。

Connection サーバをバージョン 9.1 にアップグレードする際は次の考慮事項に注意してください。

- Connection サーバを初めてアップグレードする場合は、アップグレード時に新しいバージョンが空のパーティションにコピーされます。
- Connection サーバを以前にアップグレードしている場合は、アップグレード時に新しいバージョンが非アクティブなパーティションにコピーされます。非アクティブなパーティションは、通常、アクティブなパーティションで実行されているバージョンより古い Connection のバージョンが含まれます。

まれるパーティションです。(以前に新しいバージョンにアップグレードして、古いバージョンに戻している場合、非アクティブなパーティションに現在実行されているバージョンより新しい Connection のバージョンが含まれています)。アップグレードを開始する前に非アクティブなパーティションに含まれていたソフトウェアは、上書きされます。

- 現在のバージョンによっては、希望のバージョンまでに 2 回アップグレードする必要があります。その場合、アップグレードが完了すると現在のバージョンは使用できなくなります。これは、現在のバージョンを含むパーティションが 2 回めのアップグレードで上書きされるためです。
- ソフトウェア アップグレードのインストールには、サーバ 1 台当たり約 2 時間が必要です。Connection クラスタをアップグレードするには、約 4 時間が必要です。
- アップグレードしたソフトウェアへの切り替えには数分が必要です。

Connection 9.0 から Connection 9.1 にアップグレードする際の Connection の機能の状態

クラスタを設定していない場合、Connection 9.0 から Connection 9.1 へのアップグレード中は、その全期間を通じて Connection が全面的にディセーブルになります。

クラスタをアップグレードする場合、アップグレードはパブリッシュ サーバで開始されます。パブリッシュ サーバでの Connection の機能は、アップグレードの期間全体にわたって完全に無効になります。パブリッシュ サーバのアップグレード中にサブスクリバ サーバで使用可能な機能については、以下のことに注意してください。

- 電話システムがコールをサブスクリバ サーバに転送する場合、外部の発信者と Connection ユーザは音声メッセージを残すことができますが、メッセージはユーザのメールボックスには即時配信されません。
- Connection ユーザは、電話ユーザ インターフェイス (タッチトーン カンバセーション) を使用して、アップグレードを開始する前に管理者が録音したメッセージを聞くことができます。しかし、アップグレード中に録音されたメッセージを聞くことはできず、Connection でメッセージのステータスが必ずしも保持されません。たとえば、ユーザがアップグレード中に音声メッセージを再生すると、メッセージはアップグレード後に再び新規作成としてマーク付けされる場合があります。ユーザがメッセージを削除した場合でも、アップグレード後にメッセージが再表示されることがあります。
- Connection ユーザは、ViewMail for Outlook、Web Inbox、IMAP 電子メール アプリケーションなどのグラフィカル ユーザ インターフェイスを使用して Connection にアクセスすることはできません。
- Connection ユーザがアップグレード中にタッチトーン カンバセーションを使用して個人設定やその他の設定を変更しても、変更はたいてい失われます (アップグレード中に、変更が保存される短い時間がありますが、このような時間を識別することはかなり困難です)。
- Cisco Unified Operating System Administration は利用可能ですが、Connection の管理 や Cisco Unity Connection Serviceability など他の管理ユーザ インターフェイスは利用可能ではありません。また、Connection 管理 API を使用して開発されたカスタム管理インターフェイスも利用可能ではありません。
- アップグレード時間中、サイト内ネットワークとサイト間ネットワークは無効になります。ネットワークの他のノードで行われたディレクトリ変更は、アップグレードが完了するまで、アップグレード中のサーバやクラスタにはレプリケートされません。

パブリッシュ サーバのアップグレードが完了すると、フル機能がパブリッシュ サーバに復元されます。

クラスタ内のサブスクリバ サーバでアップグレードを開始する場合：

- サブスクリバ サーバに録音されているメッセージはパブリッシャ サーバにコピーされ、パブリッシャ サーバはメッセージをユーザのメールボックスへの配信を開始します。
- サブスクリバ サーバでの Connection の機能は、アップグレードの期間全体にわたって完全に無効になります。

サブスクリバ サーバのアップグレード中、パブリッシャ サーバに録音されているメッセージは、パブリッシャ サーバのユーザ メールボックスに配信されます。サブスクリバ サーバのアップグレードが完了すると、メッセージはサブスクリバ サーバにレプリケートされ、サブスクリバ サーバのユーザ メールボックスに配信されます。1 つの受信トレイしか設定されていない場合、メッセージはユーザ メールボックスに配信された後で Exchange と同期されます。アップグレード中に大量のメッセージが録音されている場合、メッセージの配信、レプリケーション、および Exchange との同期までに、大きな遅延が発生する可能性があります。

Connection 9.0 からのアップグレードで再設定が必要になる機能

Connection 9.1 には、現在 Connection ユニファイド メッセージングに搭載されている次の機能の拡張機能が搭載されています。

- Text To Speech を使用した Exchange の電子メールへのアクセス。
- 電話による Exchange のカレンダーへのアクセスにより、今後の会議のリストを聞いたり、会議の開催者にメッセージを送信したり、参加者に会ったりすることが可能。
- Exchange の連絡先をインポートし、Connection Personal Call Transfer Rules で使用したり、ボイス コマンドを使用して電話をかける際に使用することが可能。

Connection 9.0 からアップグレードし、Connection で Exchange の電子メール、予定表、または連絡先にアクセスする場合、それらの機能は再設定しない限り動作しません。タスク リストに、アップグレードプロセスのどの段階でこれらの機能を再設定するかを示します。

ユーザを Cisco Unity から移行した場合の FIPS モードの有効化

以下の両方が該当する場合、Connection 9.1 で FIPS モードを有効にすると、Connection ユーザが電話ユーザ インターフェイス (タッチトーン カンパセーション) にサインインして音声メッセージを再生または送信したり、ユーザ設定を変更したりすることができなくなります。

- ユーザが Cisco Unity 5.x またはそれ以前のバージョンで作成され、その後 Connection に移行した場合。
- Connection ユーザが、Cisco Unity 5.x またはそれ以前のバージョンで割り当てられたタッチトーン カンパセーション PIN を保持している場合。

ユーザは、ID (通常はユーザの内線番号) と PIN を入力して、タッチトーン カンパセーションにサインインします。ID と PIN は、ユーザが作成されたときに割り当てられます。PIN を変更できるのは管理者またはユーザです。Connection の管理 では、管理者が PIN にアクセスできないように、PIN がハッシュされます。Cisco Unity 5.x またはそれ以前のバージョンでは、Cisco Unity は MD5 ハッシュ アルゴリズムを使用して PIN をハッシュしていました。Cisco Unity 7.x 以降、および Connection では、復号化がより困難な SHA-1 アルゴリズム (FIPS 準拠) を使用して PIN をハッシュします。(MD5 は FIPS 準拠ではありません)。

ユーザが Connection をコールして ID と PIN を入力した場合、Connection が、ユーザの PIN が MD5 と SHA-1 のどちらでハッシュされたのかを判別するためのデータベースのチェックを行います。続いて、Connection はユーザが入力した PIN をハッシュし、その PIN を Connection データベース内でハッシュされた PIN と比較します。PIN が一致した場合は、ユーザがログインします。

Connection 9.1 以降では、FIPS モードを有効にすると、Connection は、ユーザの PIN が MD5 と SHA-1 のどちらでハッシュされたのかを判別するためのデータベースのチェックを行わなくなります。その代わりに、Connection は SHA-1 で PIN をハッシュし、その PIN を Connection データベース内のハッシュされた PIN と比較するだけになります。PIN が MD5 でハッシュされている場合、ユーザが入力した PIN とデータベース内の PIN は一致しないため、ユーザはサインインすることができなくなります。



(注)

Connection のユーザ アカウントが最初に Cisco Unity 5.x またはそれ以前のバージョンで作成されたが、ユーザがタッチトーンカンパセーションを使用してログインしたことがない場合は、FIPS モードが有効なときに PIN が無効であっても問題ではありません。

ユーザ アカウントの PIN が MD5 でハッシュされた可能性がある場合に、ユーザがタッチトーンカンパセーションを使用してログインできるようにするには、MD5 でハッシュされたパスワードを SHA-1 でハッシュされたパスワードに置換する方法を利用することができます。

- **User Data Dump** ユーティリティの最新バージョンを使用して、MD5 によってハッシュされた PIN を持っているユーザの数を判別します。各ユーザの [Pin_Hash_Type] カラムに MD5 または SHA1 のいずれかが表示されます。このユーティリティの最新バージョンをダウンロードして [ヘルプ (Help)] を表示する方法については、次の URL にある Cisco Unity Tools Web サイトの User Data Dump のページを参照してください。
<http://ciscounitytools.com/Applications/CxN/UserDataDump/UserDataDump.html>



(注)

User Data Dump ユーティリティの古いバージョンには、[Pin_Hash_Type] カラムは含まれていません。

- FIPS モードを有効にするには、Connection の管理の [パスワードの設定 (Password Settings)] ページの [次回サインイン時に、ユーザによる変更が必要 (User Must Change at Next Sign-In)] チェックボックスをオンにします。その後、ユーザに Connection にサインインして PIN を変更するよう推奨します。
- それでも PIN を変更しないユーザがいる場合は、**Bulk Password Edit** ユーティリティを実行してください。Bulk Password Edit では、特定の PIN (たとえば、MD5 でハッシュされたすべての PIN) をランダムな値に変更できます。また、変更されたデータを .csv ファイルにエクスポートすることもできます。エクスポートされるファイルには、PIN が変更された各ユーザの名前、エイリアス、電子メールアドレス、および新しい PIN が含まれます。この .csv ファイルを使用して、新しい PIN を持つ各ユーザに電子メールを送信することができます。このユーティリティは、次の URL にある Cisco Unity Tools Web サイトから入手できます。
<http://www.ciscounitytools.com/Applications/CxN/BulkPasswordEdit/BulkPasswordEdit.html>

Connection クラスタでない Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンにアップグレードするためのタスク リスト

既存の Connection 9.0 サーバから出荷されている 9.1 バージョン（Connection クラスタ設定なし）にアップグレードするには、次のタスクを実行します。

1. *Cisco MCS 7825-H3* サーバまたはそれと同等である *HP DL320G5* で Connection 9.0 をアップグレードする場合：128 GB 以上の USB フラッシュ ドライブまたは外部ハードディスクを確保します。

アップグレード中に、Connection サーバのディスク ドライブはハードウェアベースの RAID からソフトウェアベースの RAID に変換されます。RAID の変換の前に、USB ドライブが再フォーマットされ、Connection サーバのデータおよび音声メッセージがドライブにコピーされます。RAID が再設定されると、データおよび音声メッセージが Connection サーバのディスク ドライブに復元されます。



注意

保存したいデータが含まれる USB ドライブは使用しないでください。アップグレード中に、USB ドライブは再フォーマットされ、ドライブにある既存のデータはすべて消去されます。

2. アップグレード中は、無効化または制限されている機能のリストを確認します。「[Connection 9.0 から Connection 9.1 にアップグレードする際の Connection の機能の状態](#)」(P.2-2) を参照してください。
3. 再設定しない限り動作しない機能のリストを確認します。「[Connection 9.0 からのアップグレードで再設定が必要になる機能](#)」(P.2-3) を参照してください。
4. Connection 9.0 から Connection 9.1 にアップグレードする場合は、アップグレードを実行する前に、CLI コマンド `run cuc preupgrade test` を実行して前提条件を確認します。
5. Connection ユーザ アカウントを Cisco Unity から移行していて、FIPS モードを有効にする場合：ユーザがタッチトーンカンパセーションにサインインできないようにする FIPS 準拠でない電話ユーザインターフェイス（タッチトーンカンパセーション）の PIN の説明を参照してください。「[ユーザを Cisco Unity から移行した場合の FIPS モードの有効化](#)」(P.2-3) を参照してください。
6. 出荷されているバージョンへのアップグレードに関するその他の情報については、該当するバージョンの『[Release Notes for Cisco Unity Connection](#)』を参照してください。特に、「[Installation and Upgrade Information](#)」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能です。
7. Connection 9.1 へのアップグレードに必要なライセンス ファイルを取得します。この段階では、ファイルをインストールしないでください。インストールは、以降のアップグレードプロセスで行います。『[System Administration Guide for Cisco Unity Connection](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/administration/guide/9xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 9.x](#)」の章を参照してください。

8. Connection サーバに英語（米国）以外の言語がインストールされており、その言語を引き続き使用する場合：該当する Connection 9.1 の言語ファイルをダウンロードします。「[Connection 9.x の言語ファイルのダウンロード](#)」（P.9-3）を参照してください。

**注意**

Connection サーバに英語（米国）以外の言語をインストールして使用している場合は、以降のアップグレードプロセスで Connection 9.1 バージョンの同じ言語をインストールする必要があります。これを行わないと、Connection のカンパセーションが一部のユーザで正常に動作しなくなります。

9. 交換するハードディスクまたは交換するサーバのバックアップがない場合：ディザスタリカバリシステムを使用して、サーバのバックアップを行います。詳細については、該当する『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』（http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html）を参照してください。
10. 業務時間外にアップグレードする場合：**utils iothrottle disable** CLI コマンドを実行してアップグレードの速度を上げます。
- アップグレードが業務時間中のシステムパフォーマンスに与える悪影響を回避するために、アップグレードプロセスが抑制され、完了するまで数時間かかる場合もあります。メンテナンス中にアップグレードする場合は、抑制をディセーブルにして、アップグレードの速度を上げることができます。こうすると、アップグレードが完了するまでの時間は短縮できますが、Connection のパフォーマンスに影響が出ます。詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』（http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html）を参照してください。
11. Connection ソフトウェアをアップグレードします。該当する項を参照してください。
- 「ローカル DVD による Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンへのアップグレード」（P.2-14）
 - 「ネットワーク ロケーションによる Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンへのアップグレード」（P.2-16）
12. タスク 10. でアップグレードの抑制をディセーブルにした場合：**utils iothrottle enable** CLI コマンドを実行して、抑制を再度イネーブルにします。詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』（http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html）を参照してください。
13. Connection サーバ上のアップグレードしたソフトウェアに切り替えます。「[Connection 9.x ソフトウェアのアップグレード後バージョンへの切り替え](#)」（P.3-33）を参照してください。
14. Connection サーバに英語（米国）以外の言語がインストールされており、その言語を引き続き使用したい場合：「[Connection 9.x の言語ファイルのインストール](#)」（P.9-4）を参照してください。

日本語をインストールして Cisco Unity Connection Administration をローカライズするには、Cisco Unified Communications Manager の日本語ユーザ ロケールもインストールする必要があります。該当する『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』（http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html）の「Software Upgrades」の章の「Locale Installation」を参照してください。

他の言語をインストールして Cisco Personal Communications Assistant をローカライズする場合も、それぞれ該当する Cisco Unified Communications Manager のユーザ ロケールをインストールする必要があります。該当する『*Cisco Unified Communications Operating System Administration*

Guide』

(http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Software Upgrades」の章の「Locale Installation」を参照してください。

15. Connection 9.0 から出荷されている Connection 9.1 バージョンにアップグレードする場合で、次のいずれかが該当する場合：必要に応じて、ユニファイド メッセージングを設定するか、ユニファイド メッセージングの設定を確認、アップデートします。
 - アップグレード前は、Exchange の電子メールへのアクセスに Text To Speech を使用していた。
 - アップグレード前は、Exchange のカレンダーへのアクセスに電話を使用していた。
 - アップグレード前は、Personal Call Transfer Rules またはボイス コマンドに Exchange の連絡先を使用していた。
 - アップグレード前は、MeetingPlace カレンダーにアクセスしていた。
 - Connection と Exchange のメールボックス（単一受信トレイ）を同期させたい。

詳細については、『Unified Messaging Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/unified_messaging/guide/9xcucumgx.html) の該当する章を参照してください。

16. タスクで単一受信トレイを設定し、単一受信トレイ機能をすべて使用する場合：次のタスクを実行します。
 - a. 現在、ワークステーション上の Outlook が、Connection のボイス メッセージに IMAP を使用してアクセスするように設定されている場合は、Outlook から IMAP プロファイルを削除します。
 - b. ワークステーションで、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook Release 9.x をインストールするか、それにアップグレードし、ViewMail を Exchange で Connection ボイス メッセージにアクセスするように設定します。

Connection クラスターで Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンにアップグレードするためのタスク リスト

アップグレード ソフトウェアがインストールされる間、パブリッシャ サーバとサブスクリバ サーバは、発生するコールやレプリケーションへの対応を継続します。アップグレードが完了した後、2 つのサーバを一度に 1 つずつ、アップグレードしたソフトウェアに切り替えます。

切り替えの際の Connection の動作に関する詳細は次のとおりです。

- パブリッシャ サーバをアップグレードしたソフトウェアに切り替えるときは、サブスクリバ サーバがすべてのコールに応答しますが、レプリケーションは発生せず、メッセージは使用できない可能性があります。
- サブスクリバ サーバをアップグレードしたソフトウェアに切り替えるときは、パブリッシャ サーバがすべてのコールに応答しますが、レプリケーションは発生せず、メッセージは使用できない可能性があります。
- 両方のサーバがアップグレードしたソフトウェアに切り替わってから約 15 分後に、両方のサーバがコールに応答し、レプリケーションが再開し、メッセージが使用可能になります。

アップグレード プロセスに関する考慮事項は次のとおりです。

- アップグレードしたソフトウェアへの切り替え中に記録されたメッセージは、レプリケートされません。つまり、アクセスする Connection サーバによっては、一時的に新しいメッセージを取得できなくなる可能性があります。アップグレード プロセスが完了すると、メッセージがレプリケートされます。レプリケーションが完了すると、アクセスする Connection サーバに関係なく、すべてのメッセージが使用可能になります。
- MWI および通知は送信されない可能性があります。MWI および通知は、アップグレード プロセスが完了しないと同期されません。

CLI インターフェイスを使用したアップグレード プロセスの詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) の `utils system upgrade` コマンドを参照してください。

Connection 9.0 クラスタ内のパブリッシャ サーバとサブスクリバ サーバから出荷されている Connection 9.1 バージョンにアップグレードするには、次のタスクを実行します。

1. Cisco MCS 7825-H3 サーバまたはそれと同等である HP DL320G5 で Connection 9.0 をアップグレードする場合：128 GB 以上の USB フラッシュ ドライブまたは外部ハード ディスクを確保します。

アップグレード中に、Connection サーバのディスク ドライブはハードウェアベースの RAID からソフトウェアベースの RAID に変換されます。RAID の変換の前に、USB ドライブが再フォーマットされ、Connection サーバのデータおよび音声メッセージがドライブにコピーされます。RAID が再設定されると、データおよび音声メッセージが Connection サーバのディスク ドライブに復元されます。



注意

保存したいデータが含まれる USB ドライブは使用しないでください。アップグレード中に、USB ドライブは再フォーマットされ、ドライブにある既存のデータはすべて消去されます。

2. Connection 9.1 にアップグレードする場合：パブリッシャ サーバおよびサブスクリバ サーバのステータスが [アクティブ (Active)] であることを確認します。サーバのステータスを確認するには、[Cisco Unity Connection Serviceability] > [ツール (Tools)] > [クラスタ管理 (Cluster Management)] に移動します。また、データベース レプリケーションの実行状態を確認し、CLI コマンド、`show cuc cluster status` を実行する必要があります。詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) の該当する項を参照してください。

次の点に注意してください。

- パブリッシャ サーバのステータスは [プライマリ (PRIMARY)]、サブスクリバ サーバのステータスは [セカンダリ (SECONDARY)] である必要があります。
 - 必ずパブリッシャ サーバを先にアップグレードし、その後でサブスクリバ サーバをアップグレードします。
3. アップグレード中は、無効化または制限されている機能のリストを確認します。「[Connection 9.0 から Connection 9.1 にアップグレードする際の Connection の機能の状態](#)」(P.2-2) を参照してください。
 4. 再設定しない限り動作しない機能のリストを確認します。「[Connection 9.0 からのアップグレードで再設定が必要になる機能](#)」(P.2-3) を参照してください。
 5. Connection 9.0 から Connection 9.1 にアップグレードする場合は、アップグレードを実行する前に、CLI コマンド `run cuc preupgrade test` を実行して前提条件を確認します。

6. *Connection* ユーザ アカウントを *Cisco Unity* から移行していて、*FIPS* モードを有効にする場合：ユーザがタッチトーンカンパセーションにサインインできないようにする *FIPS* 準拠でない電話ユーザ インターフェイス（タッチトーンカンパセーション）の PIN の説明を参照してください。「ユーザを *Cisco Unity* から移行した場合の *FIPS* モードの有効化」（P.2-3）を参照してください。
7. 出荷されているバージョンへのアップグレードに関するその他の情報については、該当するバージョンの『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』を参照してください。特に、「*Installation and Upgrade Information*」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能です。
8. *Connection* サーバに英語（米国）以外の言語がインストールされており、その言語を引き続き使用する場合：該当する *Connection* 9.1 の言語ファイルをダウンロードします。「*Connection 9.x* の言語ファイルのダウンロード」（P.9-3）を参照してください。

**注意**

Connection サーバに英語（米国）以外の言語をインストールして使用している場合は、以降のアップグレードプロセスで *Connection* 9.1 バージョンの同じ言語をインストールする必要があります。これを行わないと、*Connection* のカンパセーションが一部のユーザで正常に動作しなくなります。

9. *Connection* 9.1 からアップグレードするときに、現在の *Connection* サーバにメモリを増設する場合：「*Connection* 9.1 をサポートするためのメモリのアップグレードまたはすべてのハードディスクの交換（特定のサーバのみ）」（P.2-12）を参照してください。
10. 交換するハードディスクまたは交換するサーバのバックアップがない場合：ディザスタリカバリシステムを使用して、パブリッシャサーバのバックアップを行います。詳細については、該当する『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』（http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html）を参照してください。
11. 業務時間外にアップグレードする場合：パブリッシャサーバで **utils iothrottle disable** CLI コマンドを実行してアップグレードの速度を上げます。

アップグレードが業務時間中のシステムパフォーマンスに与える悪影響を回避するために、アップグレードプロセスが抑制され、完了するまで数時間かかる場合もあります。メンテナンス中にアップグレードする場合は、抑制をディセーブルにして、アップグレードの速度を上げることができます。こうすると、アップグレードが完了するまでの時間は短縮できますが、*Connection* のパフォーマンスに影響が出ます。詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』（http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html）を参照してください。

**注意**

アップグレードの実行中に抑制をディセーブルにすることはできません。アップグレードを開始した後で抑制をディセーブルにする場合は、アップグレードを中止して、抑制をディセーブルにし、アップグレードを最初からやり直します。

12. パブリッシャサーバで、*Connection* ソフトウェアをアップグレードします。該当する項を参照してください。
 - 「ローカル DVD による *Connection* 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンへのアップグレード」（P.2-14）
 - 「ネットワーク ロケーションによる *Connection* 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンへのアップグレード」（P.2-16）

**注意**

このタスクを行っている間は、パブリッシャ サーバを再起動したり、アップグレードしたソフトウェアに切り替えないでください。これを行うと、Connection クラスタが正常に機能しなくなります。

電話システムがコールをサブスクリバ サーバに転送する場合、外部の発信者と Connection ユーザは音声メッセージを残すことができますが、メッセージはユーザのメールボックスには即時配信されません。

13. 業務時間外にアップグレードする場合: サブスクリバ サーバで **utils iothrottle disable** CLI コマンドを実行してアップグレードの速度を上げます。
14. サブスクリバ サーバ上で、パブリッシャ サーバのステータスが **Primary**、サブスクリバ サーバのステータスが **Secondary** になっていることを確認します。手順については、『*Cluster Configuration and Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/cluster_administration/guide/9.html) の「**Administering a Cisco Unity Connection 9.x Cluster**」の章を参照してください。
15. パブリッシャ サーバがコールを受け入れ、音声メッセージをユーザに配信していることを確認します。
16. サブスクリバ サーバで、Connection ソフトウェアをアップグレードします。該当する項を参照してください。
 - 「ローカル DVD による Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンへのアップグレード」(P.2-14)
 - 「ネットワーク ロケーションによる Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンへのアップグレード」(P.2-16)

**注意**

このタスクを行っている間は、サブスクリバ サーバを再起動したり、アップグレードしたソフトウェアに切り替えないでください。これを行うと、Connection クラスタが正常に機能しなくなります。

電話システムがコールをパブリッシャ サーバに転送する場合、外部の発信者と Connection ユーザは音声メッセージを残すことができます。メッセージはユーザのメールボックスに即時配信されません。

17. パブリッシャ サーバでアップグレードしたソフトウェアに切り替えます。「**Connection 9.x ソフトウェアのアップグレード後バージョンへの切り替え**」(P.3-33) を参照してください。
18. パブリッシャ サーバ上で各種サービスが開始されるまで待ち、開始されたところでサブスクリバ サーバに切り替えます。「**Connection 9.x ソフトウェアのアップグレード後バージョンへの切り替え**」(P.3-33) を参照してください。
19. パブリッシャ サーバ上で、パブリッシャ サーバのステータスが **Primary**、サブスクリバ サーバのステータスが **Secondary** になっていることを確認します。手順については、『*Cluster Configuration and Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/cluster_administration/guide/9xcuccagx.html) の「**Administering a Cisco Unity Connection 9.x Cluster**」の章を参照してください。
20. サブスクリバ サーバ上で、パブリッシャ サーバのステータスが **Primary**、サブスクリバ サーバのステータスが **Secondary** になっていることを確認します。手順については、『*Cluster Configuration and Administration Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/cluster_administration/guide/9xcuaccagx.html) の「Administering a Cisco Unity Connection 9.x Cluster」の章を参照してください。

21. 必要に応じて、タスク 8. で取得した Connection 9.1 の言語をインストールします。「[Connection 9.x の言語ファイルのインストール](#)」(P.9-4) を参照してください。

最初にパブリッシャ サーバに言語をインストールし、次にサブスクリバ サーバにインストールします。

日本語をインストールして Cisco Unity Connection Administration をローカライズするには、Cisco Unified Communications Manager の日本語ロケールもインストールする必要があります。該当する『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』(http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Software Upgrades」の章の「Locale Installation」を参照してください。

他の言語をインストールして Cisco Personal Communications Assistant をローカライズする場合も、それぞれ該当する Cisco Unified Communications Manager のロケールをインストールする必要があります。該当する『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』(http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Software Upgrades」の章の「Locale Installation」を参照してください。

22. Connection 9.0 から出荷されている Connection 9.1 バージョンにアップグレードする場合で、次のいずれかが該当する場合：必要に応じて、ユニファイド メッセージングを設定するか、ユニファイド メッセージングの設定を確認、アップデートします。

- アップグレード前は、Exchange の電子メールへのアクセスに Text To Speech を使用していた。
- アップグレード前は、Exchange のカレンダーへのアクセスに電話を使用していた。
- アップグレード前は、Personal Call Transfer Rules またはボイス コマンドに Exchange の連絡先を使用していた。
- アップグレード前は、MeetingPlace カレンダーにアクセスしていた。
- Connection と Exchange のメールボックス（単一受信トレイ）を同期させたい。

詳細については、『*Unified Messaging Guide for Cisco Unity Connection Release 9.0*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/unified_messaging/guide/9xcucumgx.html) の該当する章を参照してください。

23. タスク 22. で単一受信トレイを設定し、単一受信トレイ機能を完全に使用したい場合：次のタスクを実行します。
- a. 現在、ワークステーション上の Outlook が、Connection のボイス メッセージに IMAP を使用してアクセスするように設定されている場合は、Outlook から IMAP プロファイルを削除します。
 - b. ワークステーションで、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook Release 9.0 をインストールするか、それにアップグレードし、ViewMail を Exchange で Connection ボイス メッセージにアクセスするように設定します。

Connection 9.1 をサポートするためのメモリのアップグレードまたはすべてのハードディスクの交換（特定のサーバのみ）



(注)

アップグレードするサーバでメモリのアップグレードもハードディスクの交換も必要ない場合は、この項を省略してください。

使用している Connection サーバの詳細については、『Cisco Unity Connection 9.<x> Supported Platforms List』（http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html）で該当するサーバに適用される表を参照してください。



警告

オン/オフのスイッチがあるシステムでは、電源をオフにし電源コードを抜いてから作業を行ってください。ステートメント 1



警告

電話網電圧への接触を防ぐため、シャーシを開ける前には電話網ケーブルを抜いてください。ステートメント 2



警告

本装置の設置および保守は、必ず **AS/NZS 3260 Clause 1.2.14.3 Service Personnel** に定められているサービス担当者が行ってください。ステートメント 88



警告

作業中は、カードの静電破壊を防ぐため、必ず静電気防止用リストストラップを着用してください。感電する危険があるので、手や金属工具がバックプレーンに直接触れないようにしてください。ステートメント 94



警告

保護カバーは製品の重要な一部です。保護カバーを取り付けていない状態で装置を操作しないでください。カバーを所定の位置に取り付けていない状態での装置の操作は、安全規格に不適合になります。火災または感電事故が発生する危険性があります。ステートメント 117



警告

雷が発生しているときには、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。ステートメント 1001



警告

インストレーション手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004



警告

ラックに装置を取り付けたり、ラック内の装置のメンテナンス作業を行ったりする場合は、事故を防ぐため、装置が安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次の注意事項を守ってください。

- ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
- ラックにすでに他の装置が搭載されている場合は、最も重いコンポーネントをラックの一番下にし

て、重い順に下から上へと搭載するようにしてください。

• ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。ステートメント 1006



警告

バッテリーを適切に交換しないと、爆発の危険があります。交換用バッテリーは元のバッテリーと同じものか、製造元が推奨する同等のタイプのものを使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。ステートメント 1015



警告

この装置は、立ち入りが制限された場所への設置を前提としています。立ち入りが制限された場所とは、特殊なツール、ロックおよびキー、または他のセキュリティ手段を使用しないと入室できない場所を意味します。ステートメント 1017



警告

感電を防ぐため、安全超低電圧（SELV）回路を電話網電圧（TNV）回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路が、WAN ポートには TNV 回路が組み込まれています。一部の LAN ポートおよび WAN ポートでは、共に RJ-45 コネクタが使用されています。ケーブルを接続する際は、注意してください。ステートメント 1021



警告

火災の危険性を抑えるため、必ず 26 AWG 以上の太さの電話線コードを使用してください。ステートメント 1023



警告

この装置は必ずアースを接続する必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。ステートメント 1024



警告

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルには、3 つの重要な機能があります。シャーシ内の危険な電圧および電流による感電を防ぐこと、他の装置への電磁干渉（EMI）の影響を防ぐこと、およびシャーシ内の冷気の流れを適切な状態に保つことです。システムは、必ずすべてのカード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーを正しく取り付けられた状態で運用してください。ステートメント 1029



警告

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



警告

本製品の最終処分は、各国のすべての法律および規制に従って行ってください。ステートメント 1040

（上記の安全上の警告の各国語版については、『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection*』

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html）を参照してください

Connection 9.1 をサポートするためにメモリのアップグレードまたはハードディスクの交換を実施するには (特定のサーバのみ)

ステップ 1 カバーを取り外します。

ステップ 2 メモリの増設を行わない場合は、[ステップ 3](#) に進んでください。

サーバモデルに応じて、メモリ モジュールを適切なスロットまたは場所に取り付けます。詳細については、『*Cisco Unity Connection 9.<x> Supported Platforms List*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html) を参照してください。

**注意**

新しいメモリ モジュールを誤ったスロットに取り付けると、サーバとオペレーティング システムがそのモジュールを認識しない場合や、Cisco Unity Connection のパフォーマンスが低下する場合があります。

ステップ 3 ハードディスクの交換を行わない場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。

サーバのハードディスクをすべて交換します。

**注意**

既存のハードディスクを取り外し、それと同じ台数のハードディスクを取り付ける必要があります。台数が異なると、Cisco Unity Connection のインストールが失敗します。

- a. サーバに設置されているハードディスクの現在の場所（ハードディスクとハードディスク スロットの対応関係を含む）を書き留めます。交換が失敗して現在の構成に戻す場合に、既存のハードディスクをそれぞれの現在の位置に戻す必要があります。
- b. サーバからドライブトレイを取り外します。
- c. ドライブトレイから古いハードディスクを取り外します。
- d. ドライブトレイに新しいハードディスクを取り付けます。
- e. ドライブトレイを、手順 a. で記録した場所に取り付けなおします。

ステップ 4 カバーを取り付けなおします。

ローカル DVD による Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンへのアップグレード

ローカル DVD を実行して Connection をアップグレードするには、次のいずれかの方法を実行します。

- シスコから発送された DVD を使用する。
- Cisco.com から署名済みの .iso ファイルをダウンロードし、ダウンロードしたソフトウェアのディスク イメージを作成する。ダウンロードした .iso ファイルからディスク イメージを抽出し、それを DVD に書き込む。

**警告**

ConnectionVM コンソールを使用して ISO ファイルをマウントする場合、インストール プロセスの終了時にディスクがイジェクトされないことに注意してください。



ヒント

DVD ISO ファイルは必ず VMware の [設定の編集 (Edit Settings)] メニューからマウントしてください。

CLI インターフェイスを使用したアップグレード プロセスの詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) の `utils system upgrade` コマンドを参照してください。



注意

クラスタをアップグレードする場合は、パブリッシャ サーバのアップグレードが完了するまで、サブスクリバ サーバのアップグレードを開始しないでください。そうでないと、パブリッシャ サーバのアップグレードが完了するまで両方のサーバの Connection の全機能が無効になります。また、サブスクリバ サーバのアップグレードが失敗し、再度サブスクリバ サーバをアップグレードする必要が生じます。

ローカル DVD を使用して Connection 9.0 ソフトウェアを出荷されている 9.1 バージョンにアップグレードするには

- ステップ 1** Connection を収録した DVD を Cisco Unity Connection サーバのディスク ドライブに挿入します。
- ステップ 2** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- Connection クラスタ内のサブスクリバ サーバをアップグレードする場合に、Cisco Unified Operating System Administration にアクセスするには、次にアクセスします。
- ```
http://<Connection_servername>/cmplatform
```
- ステップ 3** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades) ] メニューから、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade) ] を選択します。
- ステップ 4** [ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade) ] ページの [ソース (Source) ] フィールドで、[DVD/CD] を選択します。
- ステップ 5** [ディレクトリ (Directory) ] フィールドに、スラッシュ (/) を入力します。
- ステップ 6** [次へ (Next) ] を選択します。
- ステップ 7** インストールするアップグレード バージョンを選択し、[次へ (Next) ] を選択します。アップグレード ファイルが Connection サーバのハード ディスクにコピーされます。ファイルがコピーされると、画面にチェックサム値が表示されます。
- ステップ 8** チェックサムを確認します。
- ステップ 9** 次のページで、アップグレードの進行状況をモニタします。
- このステップの途中でリモート サーバとの接続が失われた場合、またはブラウザを閉じた場合は、[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade) ] ページを再度表示しようとする、次のメッセージが表示されることがあります。
- Warning: Another session is installing software, click Assume Control to take over the installation.
- アップグレードのモニタリングを継続する場合は、[制御の取得 (Assume Control) ] を選択します。Real-Time Monitoring Tool でアップグレードをモニタすることもできます。
- ステップ 10** [次へ (Next) ] を選択します。



(注)

- Connection クラスタを設定していない場合は、手動切り替えバージョンまたは自動切り替えバージョンを選択できるオプションがあります。
- Connection クラスタを設定している場合は、自動切り替えバージョンのオプションを選択する必要があります

アップグレードの初期フェーズで、Cisco Unified Operating System Administration の [インストールログ (Installation Log)] テキスト ボックスがアップグレードの処理に関する情報で更新されますが、サーバの初回自動再起動後、更新は行われなくなります。アップグレードが完了したかどうかを確認するには、コンソールで Connection サーバを確認します。完了している場合は、コンソール画面にインストールが完了していることを示すメッセージと、コマンドライン インターフェイスのログイン プロンプトが表示されます。

- ステップ 11** アップグレードの成功を確認するには、CLI コマンド、**show cuc version** を実行します。アクティブなパーティションにアップグレードされたバージョンがあり、アクティブでないパーティションに古いバージョンがある場合は、アップグレードが成功しています。

## ネットワーク ロケーションによる Connection 9.0 ソフトウェアから出荷されている 9.1 バージョンへのアップグレード

ネットワーク ロケーションから Connection をアップグレードするには、Cisco.com から署名済みの .iso ファイルをダウンロードし、その .iso ファイルを FTP または SFTP サーバにコピーします。Connection では、シスコから発送された DVD の内容や、ダウンロードした .iso ファイルから抽出した内容を FTP または SFTP サーバにコピーすることはできません。これは、改ざんされたソフトウェアを使用したアップグレードを予防するためです。

CLI インターフェイスを使用したアップグレードプロセスの詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 ([http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html)) の `utils system upgrade` コマンドを参照してください。



注意

クラスタをアップグレードする場合は、パブリッシャ サーバのアップグレードが完了するまで、サブスライバ サーバのアップグレードを開始しないでください。そうでないと、パブリッシャ サーバのアップグレードが完了するまで両方のサーバの Connection の全機能が無効になります。また、サブスライバ サーバのアップグレードが失敗し、再度サブスライバ サーバをアップグレードする必要が生じます。

### ネットワーク ロケーションから Connection 9.0 ソフトウェアを出荷している 9.1 バージョンにアップグレードするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection サーバがアクセスできる FTP または SFTP サーバ上のフォルダにアップグレード ファイルをコピーします。
- ステップ 2** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- Connection クラスタ内のサブスライバ サーバをアップグレードする場合に、Cisco Unified Operating System Administration にアクセスするには、次にアクセスします。

http://<Connection\_servername>/cmplatform

**ステップ 3** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades) ] メニューから、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade) ] を選択します。

**ステップ 4** [ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade) ] ページの [ソース (Source) ] フィールドで、[リモート ファイルシステム (Remote Filesystem) ] を選択します。

**ステップ 5** [ディレクトリ (Directory) ] フィールドに、アップグレード ファイルを格納したフォルダのパスを入力します。

アップグレード ファイルが Linux または UNIX サーバ上にある場合は、フォルダ パスの先頭にスラッシュ (/) を入力する必要があります (たとえば、アップグレード ファイルが upgrade フォルダにある場合は、/upgrade と入力する必要があります)。

アップグレード ファイルが Windows サーバ上にある場合は、次のように FTP または SFTP サーバに適切な構文を使用する必要があります。

- パスの記述はスラッシュ (/) で開始し、その後のパスの区切りにもスラッシュを使用します。バック スラッシュ (\) は使用しません。
- パスの先頭部分は、サーバ上の FTP または SFTP のルート フォルダにする必要があります。したがって、ドライブ文字 (C: など) で始まる Windows の絶対パスは入力できません。

**ステップ 6** [サーバ (Server) ] フィールドにサーバ名または IP アドレスを入力します。

**ステップ 7** [ユーザ名 (User Name) ] フィールドに、リモート サーバにログインするときに使用するエイリアスを入力します。

**ステップ 8** [ユーザ パスワード (User Password) ] フィールドに、リモート サーバにログインするときに使用するパスワードを入力します。

**ステップ 9** [転送プロトコル (Transfer Protocol) ] フィールドで、適切な転送プロトコルを選択します。

**ステップ 10** [次へ (Next) ] を選択します。

**ステップ 11** インストールするアップグレード バージョンを選択し、[次へ (Next) ] を選択します。アップグレード ファイルが Connection サーバのハード ディスクにコピーされます。ファイルがコピーされると、画面にチェックサム値が表示されます。

**ステップ 12** チェックサムを確認します。

**ステップ 13** 次のページで、アップグレードの進行状況をモニタします。

このステップの途中でリモート サーバとの接続が失われた場合、またはブラウザを閉じた場合は、[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade) ] ページを再度表示しようとすると、次のメッセージが表示されることがあります。

Warning: Another session is installing software, click Assume Control to take over the installation.

アップグレードのモニタリングを継続する場合は、[制御の取得 (Assume Control) ] を選択します。

Real-Time Monitoring Tool でアップグレードをモニタすることもできます。

**ステップ 14** [次へ (Next) ] を選択します。



(注)

- Connection クラスタを設定していない場合は、手動切り替えバージョンまたは自動切り替えバージョンを選択できるオプションがあります。
- Connection クラスタを設定している場合は、自動切り替えバージョンのオプションを選択する必要があります

アップグレードの初期フェーズで、Cisco Unified Operating System Administration の [インストール ログ (Installation Log) ] テキスト ボックスがアップグレードの処理に関する情報で更新されますが、サーバの初回自動再起動後、更新は行われなくなります。アップグレードが完了したかどうかを確認す

るには、コンソールで Connection サーバを確認します。完了している場合は、コンソール画面にインストールが完了していることを示すメッセージと、コマンドライン インターフェイスのログインプロンプトが表示されます。

- ステップ 15** アップグレードの成功を確認するには、CLI コマンド、**show cuc version** を実行します。アクティブなパーティションにアップグレードされたバージョンがあり、アクティブでないパーティションに古いバージョンがある場合は、アップグレードが成功しています。
-